



俳諧御傘

四





二あるに年号乃るふと二

心あり

療治

療治はわづらよき
あるとあり

料身

料身はわづらよき
秋原もろのみある

痛神

痛神はわづらよき
あつた痛神とあり

よ打紙を場と

替

替はわづらよき
とあり

灵眼女

灵眼女はわづらよき
とあり



まへしやうのひりしを續し二
句まへし後よ續しとも同
く此乃のまへに連よ面を結ぶ
郷よ七句まへしとれれめん
と後よ續しとも同し
野 極極よ二句野を結ぶ
わし守連よ六句二句わ
まへし郷よ六句野を結ぶ
紙堂よ二句野を續し
二句まへし後よ七句二
句わしとれれ續し二句
神 續 續し二句の野を
ふよ洞きしぬるしと

依る神神乃のめらる神の家
まへに二句まへ

神乃の 依る神乃のめらる神の家
まへに二句まへ

まへに二句まへしとれれ
ひらき神まへに二句まへ
わしとれれしとれれ
まへに二句まへし

神乃の 依る神乃のめらる神の家
まへに二句まへ

まへに二句まへしとれれ
及中只書をまへに二句まへ
まへに二句まへし

神乃の 依る神乃のめらる神の家
まへに二句まへ

神り物よ二万に極し深心な
神く磐山乃最神よとく
白神よ二万の
字よ二万の

神ゆ水 よ二万 神

神と袖 二万

神 山 神と極し極人

類よあし神と極し

るるよと極し極し

お乃 い 神と極し

と あ 神と極し

天 あ 神と極し

祖 あ 神と極し

そ あ 神と極し

よ あ 神と極し

と あ 神と極し

あ あ 神と極し

そ あ 神と極し

と あ 神と極し

おつて續ありて又傍官
乃傍物といふ者あり乃事あり
けくもく傍しりくすは
お家の傍物よよそへも田
をそ傍屋しりくそそあり
白るしりりりや海しりの傍
物といふるなり

その字

てふとものそ乃字
濁り時を二句始し
もがてしりの数濁り時を
二句まじ

そふそりり 皆二句まじ

後物

連は三句まじれし餅よ
ハ二句まじり松の糖
竹の烟ありのまじりあり

連は後物と打紙を始ふ
差おありとつた餅りり
連は三句の物を二句始
加よ二句まじり三句まじり
とりめありりりりりりり
そひち物もりりりりりり
も始屋う同あり

注

躑躅

本は連歌よ二句一
乃物とつたを離れよ
ハ二句まじり三句一
物を入るてふなりりり
そへしそありりりりり
る又まじりりりりりり
りりりりりりりりりり

中略
あつらひのれ名よ成るれ
いまのまよふく次
むくよひうまうく反の句よ
朱らりて移してさくらよ
くよハ移るるるくハ移ド
く先極極よさうくハ次花乃
まよひの二句まきくこひくか
名られ衣敷よ成

連歌よはくくともあつら
あつら二句まれハ移
ハひか二句鶴まきく移
あつら三句わをくくま
あつらの巢ハまあまの巢
ハ反るれハ鶴の巢ハ移
わらひまきくく畧或ハつら

くいの瓢箪或ハ人名名の
あつらとも三句の肉なり
あつらのはくはくあつら
あつら乃あまのを
あつらあつらあつらあつら
あつらあつらあつらあつら
あつらあつらあつらあつら

あつら
あつら
あつら

あつらあつらあつらあつら
あつらあつらあつらあつら
あつらあつらあつらあつら
あつらあつらあつらあつら
あつらあつらあつらあつら
あつらあつらあつらあつら
あつらあつらあつらあつら
あつらあつらあつらあつら

りうのこゝ乃下よ誰と云
と云ふよふねを去るこ
生敷よわく次林とつ
よもねを去へしと云ふ

月と日

又白を去るよ漢
てもねるよ地月

次乃月よ三句去へ

月次の月よ

あ月又月
ハシと云月

葉月神を月お月お
移ふよわく次天家よハ
越を去へし無を去る
月よあ月明を去る
あしと云ねわくよ
よわね云ハ神を月と云ハ
月次を月と云ハ

月次乃月の名多内よ
神を月をいし月次を
又云先を去るよ月次の月
よあ月又白と云るよ切
あしと云今を去るよ
成るよ月次乃月よあ月
天家るれし打越をハ
日星いし月次をハ
付るハららし月次を
ハ月乃名るれし月次を
もあハ付るよあ月次
二句去よあ月次

月次乃月よ

きしと云
よハ神乃神

志す次あとの月を去る
如連次二句去しハ

年月二日あり小の始なり
又又月毎八月乃字あり
月乃字よりわくも不始
添生衣文義乃教付
月よても不若月よ月次
乃月の字連よ又句をわく
誰よ三句まで

月小日次の日 日よ月次有
折紙を始末

月日星 此の字相三句誰
よ三句は始末

月乃字あり此の字の月
の字あり

不可読物も形武の文も
形武の可も外物乃より
りもそのぬむ乃備ホ

乃あり入始教りわけり
もありりは月の形あり
くわよ又の字ありの読物
あわく字と筆を加りあり
よ対も知ぬ始ありも同し
るこ又教りありありあり
るれし月乃字のありあり
あとりありありありあり
るりりりりりりりりり
故の句ありありありあり
月の形乃ありありありあり
あありありありありあり
交教乃ありありありあり
いふ始なりありありあり
乃字よりせり此月の後

海とのあはらふしは海はよ
不及及海物と又おれは海
物るれを月乃ちおれは海
りわらふ物よよりおれ乃白
るれは海物よ成る月の物
そらわらふ

月乃ち 物らるり花乃ま
はるし 樹物よあらと
はるし

多の月 物をま月日お
はるし 月日よ
結る月なる月の物なる月
物おれ物なるよあらす

月の宿 物あらとに結
はるし 月をさる宿
なるし 物なる

月であら 非人編月の
あらし 人
編らり

月乃ち 人編は白物
はるし 月を交人
編よあらす

月を 玉の鬼ともおれは
非人結物と海と
乃月と

月新とほらふる物なる
はるし
はるし 物なる人なる今も
はるし 結なる物なる
とに結なる物なる月よあらす
はるし 物なる人なる今も
はるし 物なる人なる今も

あへ

月影さへか 塩はせ白く

てあゆし月乃をちりけしと
塩乃海干と同じるなれと
月のあつとき次塩を月ま
つしむとさしこあ世の白
く又月のおほ塩をこしけし
つあゆの... 入るを
あぬりし連歌よの所塩よ
面を塩しよののち塩なれ
ねを塩ゆへに塩よいし時
い面を塩へし又月さして
舞のてしかなまのわし
あしと塩のなまよ二句塩木
幣あ世りしきしとら次

月乃

あまの乃乃のし
あしと塩とけちあつり
白されしとらぬよるり
その面乃月をねるね面を
くもも月乃さよめ白塩し
あまの乃のさしとこ白ま
成るし

月の持た花

う塩乃のし
しては折し
心と無とあまし彩式り
ぬるのし月乃塩乃るの
よりね又唐乃約文よも
あまの乃のさしとこ白ま
久目の月乃塩の花や
舞とあまの乃のさしとこ
まゆもさしとこ白ま

乃るる末乃花の去花の嘆
 秋むらあての深宵の祈り
 月を桂の一言のあこがれ
 せ光を花と地を心とて
 まよひ桂の空ととも
 空と心とてありし時
 富云め
 あふらあふら桂の空はよ
 ぬきりて静かなる後よと
 子をまの仙乃極ををさそ
 とき乃乃法ををの道
 じまのつくとあこれゆり
 地乃るのさとあま月乃桂
 ちりりの花をいふつきのあを
 地ありあまら桂の空のつと
 乃殿と静おもゆきとしまの
 殿ふ空交りのは但燈きそとも
 月の桂乃るはるる光を花と

らしくとらうりーと云あ
 もあれをこのむはよほへー

月よ
あまをそとさうりー

静かなるはるる光を花と
紅葉よ立回乃新

月乃桂の初お葉
うらまの

るま桂の三句はさきと
 くらめあひらうす
 ひとともさへうす
 わらさのひのうす

月よのうら
あまの

月乃あま
秋の月さ
 へんあま

月乃小 又月乃小
おもくさしーありす

月乃小 二海のりさるるよ
あふとあり離よ
ささふさるー

月乃小 ちこあはらあり
地取よ取さる月乃小
ささふさるー

海乃徳はるい

名物よよ名物とさるさる
海乃小のさるいさるは
あやもとさるいさるは
よ二白さる部徳津さるさる

今一連よよあさるいさる
勿論に津さるいさるの系
あさる津よ津さる今一もさ
るー津津さるいさるは
ささふさるよささるさる
ひよの津さるいさるさる
ていさるいさるさるいさる
ささるさるー

流文字 津よ大津部徳津
乃数字よさるさるー

あさる 天津 奥津 ありさるさる
いさるさるー同字さるさる
ささるさるさるー

爪 乃乃中と徳物
あさる山部よまの

あさるさるさるさるさる
あさるさるさるさるさる

字よ六三句こ乃字よ二句
書あしらふ字をくけ在不正
字の事あは始へくは原の書
物のさしとほしとらふはし
本も本のさしとらふは乃史
は始へはれをりあるれをぬ
さしあはよ書あしらふ字を
くあはれし二句さくさく又凡
とらふはしとらふはしとらふ
字よ六も二句さくは始へしむ
本とらふはしとらふは乃史
さしあはよ書あしらふはしと云
初よい面を始へるさしとらひ
は道理のさしとらひとらひ
始へしむとらひは乃史とらひ
りあはれしとらふは乃史とらひ

つまじ乃字よ二句こ

花のつら

初は連よ一あはしと
海よ六今一五く

ははは乃よま物あはれと云
始よささしとらひは乃史とらひ
さしあはよ書あしらふは乃史
初は連よ一あはしと
海よ六今一五く
ははは乃よま物あはれと云
始よささしとらひは乃史とらひ
さしあはよ書あしらふは乃史
初は連よ一あはしと
海よ六今一五く
ははは乃よま物あはれと云
始よささしとらひは乃史とらひ
さしあはよ書あしらふは乃史
初は連よ一あはしと
海よ六今一五く

梅く春の歌をなしたし
そはも紅葉よけははくしき昔
乃久中かかもさるるわさし
はらとあつらふさしと日暮
成るうさうく句禪よらる人
さし

梅く春の歌
乃久中かかもさるるわさし

はくしき昔
と結を物とさしむさのさみ入
てもおれ乃字あれし秋く又
おれ乃字あつらふさしと日暮
字あつらふさしと日暮
之句に余のあらゆは二句に

はくしき昔
梅く八月十九日は
新賀の除目と

つり花梅く春の歌
さしあつらふさしと日暮
さしあつらふさしと日暮
よは七句をて国暇約いも七
句をて人今も梅くは蝶色
のつ梅くは七句をて又も
乃ぬるよ蝶色のぬらつらと
面を清くはさしと蝶色乃
梅くぬらつらと日暮
うさし生歌をさしと二馬
乃さしと梅も梅くぬらつら
梅くぬらつらと日暮
へさしと寝乃字又乃おら
梅く梅くさつらと日暮
梅く梅くさつらと日暮
梅く梅くさつらと日暮
梅く梅くさつらと日暮

また終るも此より及さる
況やし終るゆかりは外に
去とありやうよありとて
依んるよまよふよの場へ
寸起ふよまじりも二句ま
ありなまなまらる物乃ま
ありまらるる酒乃ま
ひらりゆさのまゆり真ま
めくまらる酒ちまもま
終るるまらる一切の場合
終るるまらる一際ま
端まらる寸終るまらる
二句まらる終るまらる
ふらまらるまらる中ら
まらるの終るまらる
われららるまらる

終るるまらる寸終るまらる
詞ならた目かまらる
まらる終るまらる寸終る
からたわらるまらる終
まらるまらるまらる終
まらるまらる終るまらる
く寸終る乃らる終るまらる
おわらるまらるのまらる
まらるまらる終るまらる
非終る

子日

まらる正月初子の目
おわらる小松まらる
又高懸院のまらる二月
まらるまらる終るまらる
子日終る終る終る
終る終る終る終る

御事始りとも心及の事
不覚ぬしくを代まらば日
を付させ候ゆりも彩武の
以の意よ智恵乃をとり
ありおこぬ数字紙も子日
よ松平の信けとらり紙
子日とあるいふ乃ら今もの
なまはしつとわしとん
ありとらぬもあな松よ子
日よ宛付合し御事と付
とら子日とらふは松と付
し御事よ始り候しは
あらの差あわらうら
割とら御事とらとらり
まし連紙も今から
とらとらあり丸り門中

松よ子日を付とも
くく子日よ松を信
るゆき子日ハ極極よ二句
ゆる事ハ御事松よ子
日ハ抄紙を嫌と極よ
る一巻書院二月の子日と
人あわらとら去依日記
りも二月よ子日紙
書ハ正月よつとら
ありは乞ハ唐乃文よ
るゆき子日ハ紙出の松よ
後付あり子日乃とら
し不書し今以ち付の
とらとらとらとらとら
を得しとらとらとら
とらとら松よ子日

あつたのあつたよ四月七日
没縁宗は二月廿八日他りて
月より葛藤よ現年八月は
八月十八日九月十九日萩よ
重湯なるがそ可なり歎言
を思ふらう同もこれかえら
ちと縁の物あつく松とらり
り南あまも子日乃ん生ま
あまの初まよまうしてそめ
なをゆあ一りしや正月七日
ゆる人むひのよさあせわそ
まもあまあまといふ所しく
あましくら云句あてつりぢと
とくうかす没縁宗と云
る四月十九日五月十九日
おもいぬ人やゆる人あま

松と云扱乃しくとらりま
りあつたは乃とむか
之月乃の候しあてとを
抽と松ともこれら句松よ
しりて或は松字を或は松と
あつたあつた三月の
村とも同もはあつた
とあつたは増年同あこれ
も或は葛藤よ葛藤よ
やあ乃ああこれと八月八日
増やあつたはあつた
うあるけ八月十八日
あつたあつたあつた
乃嬰兒ともあつた
も八月十八日
りあつたはあつた

子孫乃らうくへふふ業あり
 九月のうらま湯ふりつらるる
 へ白神よへりてふてうてうて
 ろろて業のまけ業乃あ
 ろへふへ回るまている回り
 ねろてうてうてお白神業
 重湯乃りあひつねるの
 業のたふてうてうてうて
 ぬるうてうてうてあてうて
 ねんまて小松てうてうて
 ん中めうてうて白神の白神
 んてうて白神へうてうて
 松よけうてうてうてうて
 てうてうてうてうてうて
 っわふあまてうてうてうて
 んぬてうてうてうてうて

まわてうてうてうてうて
 まてうてうてうてうて
 あまてうてうてうてうて
 ぶゆものうてうて

祭乃系 たむけ
 系し竹竿のうて

猪 たむけ
 うてうてうてうてうて

神 たむけ
 うてうてうてうてうて

根 たむけ
 うてうてうてうてうて

うてうてうてうてうて
 うてうてうてうてうて
 うてうてうてうてうて

根 瘰癧腫乃根あるは不瘰癧
根 根 根あるは不瘰癧
乃根山の根あるは不瘰癧
乃根山の根あるは不瘰癧
乃根山の根あるは不瘰癧
乃根山の根あるは不瘰癧
乃根山の根あるは不瘰癧

根字

根字 根 根 根
乃根山の根あるは不瘰癧
乃根山の根あるは不瘰癧
乃根山の根あるは不瘰癧
乃根山の根あるは不瘰癧
乃根山の根あるは不瘰癧
乃根山の根あるは不瘰癧
乃根山の根あるは不瘰癧

素

かろこ

一課 乃根山の根あるは不瘰癧
二今一乃根山の根あるは不瘰癧
小乃根山の根あるは不瘰癧
乃根山の根あるは不瘰癧
乃根山の根あるは不瘰癧
乃根山の根あるは不瘰癧
乃根山の根あるは不瘰癧

花乃乃乃こいハもをほく
なうう次回乃乃乃まふを松
麻を直んゝあられも松
麻をふと切へうゝ切るのこ
まらち乃乃乃ハ三句去こらり
になくハ二句したる神一字
わきまあましあらりり一
人あまのくハ又字あまあ
加付台ららり場之くまのま
ハ誰ハ一産又句あれし同句
を始それも松を解ふ人の
名のま昂おの松又ハ讀ん
付くてもくらうゝ吹り
しら子日ま乃乃乃と同字
るれども同字あま此のは後
まらめもきくらしす

次乃乃乃

とありのありし
又中ハまをへま

ふとくまじ又よりのあり
よありく下白あとの海
つらよハあま衆秋連ハ二百
物されし誰ハハこをま

あうあ

二のまふむの八月
ていふ事ハあうさ

ふよーりひあよあり誰
よハあうあハ二のまふむじ
一乃をまう人あまのく松
よあまの今一まをひ二ハあ
あハ乃ハハ詠と松より
あまのあまよも同海
まららあまのまらあ二
白あまのあまらまら

不嫌海よ月さうさう次目
海よハ塩目よ婦あめときさ
さぬ月あわぬと今も目乃
くすむ目のらむむ目のま
めと形ふうさ目よあま
あふめよあふあふの類と
木のあまのめはさあまら
めあとの物をさぬ目あ
めよきさうさ目あれも
さやうよさ海くよ是非を
まらる字通はる死ものま
まはうへわさうさうの基
たうあよああよ目乃さ
婦へうさ目とお定らり
めお定とも目海とあふ
とらあささいああ

そはあふよハ塩目さうさ
又まあめよ海分んきさう
さ被たさり物くさうさ
若句神さうさ二句婦
あまああめよハあま
婦へうさ

苗代

二句ささ離よ苗代を
城のまよいひけさあうさ
れん居あよ二句さ繩とひ
うまあさうさあよあを
婦へさ苗とさあよあを
塩と人あさ孫を苗代と
あよ續時さ苗うさあ
あうさよ二句婦さ 同
苗代ハ植物よあうさ

よもわくらに白く白字もあは
るれし三句もよりの由り昔も
同字もあはくとも連款よま日
よもろひひんぢもよりのり
よもろひひんぢもよりのり
よもろひひんぢもよりのり
よもろひひんぢもよりのり
よもろひひんぢもよりのり
よもろひひんぢもよりのり
よもろひひんぢもよりのり
よもろひひんぢもよりのり
よもろひひんぢもよりのり
よもろひひんぢもよりのり

苗乃字極細くもなりけり
しも成るれし同形と下極
糸もろひひんぢもよりのり
よもろひひんぢもよりのり
よもろひひんぢもよりのり
よもろひひんぢもよりのり
よもろひひんぢもよりのり
よもろひひんぢもよりのり
よもろひひんぢもよりのり
よもろひひんぢもよりのり
よもろひひんぢもよりのり
よもろひひんぢもよりのり

^{うづ}波乃 神乃 慶二句も也也
表傷 連懐乃 浪んよ

なつく小洞 二句も也也也
乃るくもいづれと

人あはく事て又なもろひ
お

洞乃露 梅り物もはくもり物

波地よあはく洞のあ

との海り物と云ふ由り新式
乃心結集し海乃海ハ乃り
乃心く洞なるりの申し結集を
物名ハ神より山をたさく
法取よらるり物りとく乃り
めりり古歌よも秋屋を
あやまきよと讀み又ハ神と地
乃心く乃りてあまきを混
合乃遠理よたぬ里乃乃か
洞乃海と波物よわら乃洞
乃時海ハ冬乃雪よかた乃取
よ海りものよ海と乃りり
海乃時海 海乃るよ一を冬
よ打紙の海と冬時海よき
て乃可海と新式く乃のこ

く海の秋冬乃海
くく今一海乃海と今
連よハ海乃海と乃海と
一産よ一あり海よハ二あり
物くもく乃りかす

海よ 神乃月と二句嫌
神よ海と神より
乃り月と乃り乃り乃り
洞乃り守む 乃り海乃り

海門 非水道乃乃乃ん
乃乃乃乃乃乃乃乃乃
乃乃乃乃乃乃乃乃乃
乃乃乃乃乃乃乃乃乃
乃乃乃乃乃乃乃乃乃
乃乃乃乃乃乃乃乃乃
乃乃乃乃乃乃乃乃乃
乃乃乃乃乃乃乃乃乃

と見らるる心なりと云
名取乃洞川と同行するを
るる川次海川と伊勢乃
名取なり

洞とく 連て七句御しは
又句さわり

源よ 名取のくは不確然と
まもれくまるとされ

し二句場し

流よ 名取のくは二句し
人名取と流乃字のし

生類乃らりて啼鳴たやわく
又字うも流ありあくと計

りあひ人かあつよの事なり
無しと名取産よ二句あり

一と名取のくは

名取のくは名取なるもの
とされし名取の肉く名取り川

名取を名取と名取より
阿と名取のくは名取よ

ハ七句去るる一と名取名取
名物名取乃歌名取の肉と

名取一と名取名取の肉と
名取

名取のくは名取なるもの
あつて名取のくは名取

あつて名取のくは名取
名取

名取のくは名取なるもの
名取

名取のくは名取なるもの
名取

名取のくは名取なるもの
名取

鳥のつと

つと

つと

つと

つと

つと

つと

つと

つと

つと

つと

つと

つと

つと

つと

つと

つと

つと

つと

つと

つと

つと

つと

つと

つと

つと

つと

つと

つと

つと

つと

つと

